

## 第93回 三菱地所総合防災訓練を実施

自律走行可能な警備ロボットの非常時活用を想定した医療連携訓練、  
訪日旅行者や外国人ワーカー向け帰宅困難者受入訓練、VR 防災車体験などを実施

三菱地所株式会社は、本日早朝より、東京・丸の内エリアを中心に、三菱地所グループ社員約1,250名及び関係先が参加する総合防災訓練を実施しました。本訓練は、三菱合資会社地所部が1923年（大正12年）の関東大震災時に、同年に竣工した旧丸ビルを中心に救護活動を行ったことを契機としており、今年で93回目（1926年（大正15年）より実施）を迎えます。

丸の内エリアでは、保有する約30棟のビルで東日本大震災クラスの地震発生を想定し、非常災害体制の発令により、全社員が災害対策要員として初動対応や安否確認、情報収集、資機材作動習熟訓練等を実施しました。

本年度は、例年行っている災害時医療連携訓練※1に加え、通常時はオフィスビル内の警備業務を行う自律走行が可能な警備ロボット「SQ-2」を活用し、トリアージ※2後の負傷者をサポート（声掛けの実施や搬送先・被災状況の共有等）を防災センターにいる警備員が同ロボットを介して行う訓練を実施しました。同ロボットは複数拠点に配置し、複数の仮救護所の負傷者を遠隔でサポートすることを想定しました。

※1 千代田区医師会と連携し、仮救護所の設置、処置優先度を定めるトリアージ、応急救護といった災害時の医療連携の流れを確認する訓練。

※2 災害発生時などに多数の傷病者が発生した場合に、傷病の緊急度や重症度に応じて治療優先度を定めること。

また、丸の内エリアに増加する訪日旅行者や外国人ワーカーに対する災害時の対応として、帰宅困難者受け入れスペースにおける外国人受入対応訓練と防災体験等を行いました。



警備ロボットの非常時活用を想定した医療連携訓練の様子



帰宅困難者受入訓練

当社では、平素より独自の災害対策要綱を策定し、建物等の耐震化等の各種災害予防策のほか、非常用資機材の配備、食糧備蓄及び災害発生時の非常災害体制の編成など、大地震等の災害への対策を講じています。当社は、今後も千代田区・所轄消防署や各ビルのテナント企業の皆様の協力のもと、非常時にも十分な体制が構築できる安全・安心な街づくりを目指します。

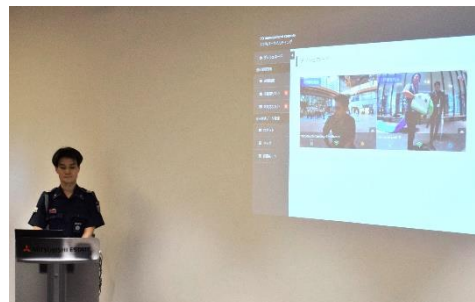
## <2019年度の主な総合防災訓練内容>

### ① 自律走行可能な警備ロボットの非常時活用を想定した災害時医療連携訓練（7:45～）

大手町パークビルに2019年8月29日より本導入した自律走行可能な警備ロボット「SQ-2」を非常時にも活用する訓練を行いました。通常の警備を行っている状態から仮救護所に自律走行させ、仮救護所において、トリアージ後の負傷者のサポートをロボットに搭載の通話・カメラ機能を通じた遠隔での英語対応で行いました。訓練では同ロボットを丸ビルにも配置しており、複数の仮救護所を1地点から遠隔で見守ることで、より高度な負傷者のサポートを行いました。



警備ロボットを介して負傷者をサポートする様子



警備員が仮救護所を遠隔で確認している様子

### ② 訪日旅行者や外国人ワーカー向け帰宅困難者受入訓練・VR防災体験車等（8:30～）

増加する訪日旅行者に対する災害時の訓練として、帰宅困難者受入スペースにおける外国人受入対応訓練を行いました。また、実際に当エリアワーカーに参加いただき、外国人向けの防災体験を行いました。具体的には、英語仕様のAEDを活用した蘇生訓練やVR防災体験車を使用した体験型訓練等を行いました。



帰宅困難者受入訓練の様子



AEDを活用した蘇生訓練の様子



VR防災体験車の様子

### ③ ビル総合防災訓練（9:50～）

東京消防庁丸の内消防署および丸の内消防団と連携し、大規模な消防訓練を実施。丸の内二重橋ビルにおいて、はしご車を活用した救助訓練や負傷者搬送救護訓練、一斉放水を含む一連の消防演習を実施しました。



はしご車を活用した救助訓練



放水訓練の様子



消防演習の様子

### <参考>障がいのある社員向け防災の備えと訓練

三菱地所グループと株式会社スタートラインとの協業により開業した障がい者雇用支援施設「インクル MARUNOUCHI（新国際ビル所在）」では、障がいのある就業者が更に安心して活躍できる環境を整える為に、「障がいのある就業者のための防災訓練」を2019年7月に実施し、今般、その内容をマニュアルとして纏めました。

本マニュアルでは、特に発達・精神の障がいのある就業者に対して、災害時に感じる不安を軽減する為の「日々の備え・災害時の行動」を纏めたものです。

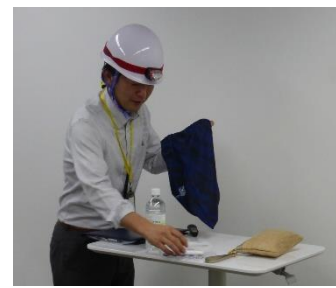
具体的には、事前ヒアリングを通して、就業者一人ひとりが「特にどのような環境や不便さに不安を感じるか」を相互に理解して災害時には適宜フォローする体制を整えることや、暗闇による不安を軽減させる「明り」（ソーラーパネルやペンライト）の備蓄、常備薬3日分を含めた「個人用防災袋」の準備、災害時のプライバシースペースの確保方法といった様々な工夫と備えが記載されており、障がい者雇用と活躍を推進しているエリア企業などに対し、2019年10月中旬のインクル丸の内セミナーにて共有する予定です。



インクル MARUNOUCHI



不安を軽減させる「明り」を備蓄



「個人用防災袋」の準備

以 上